



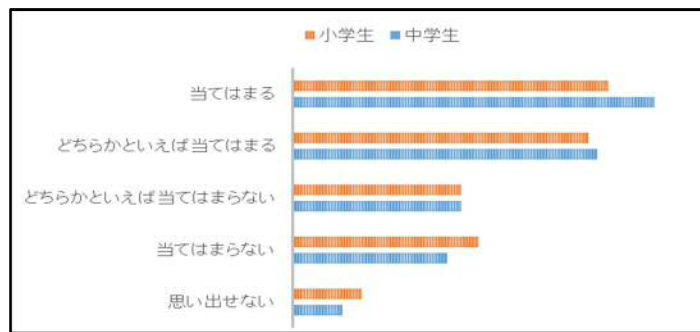
## 1 コロナ禍によって生じた教育課題

### (1) 学習に対する課題

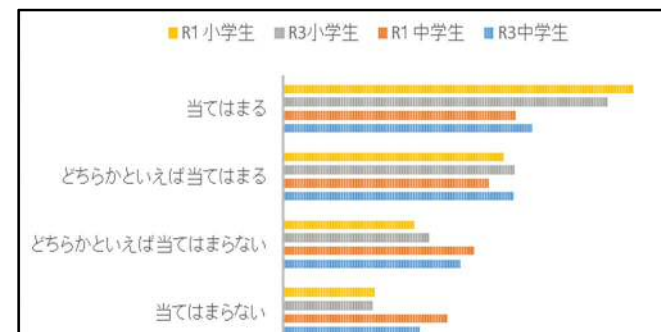
#### ①全国学力・学習状況調査から

- ・「感染拡大で休校していた期間中、勉強への不安を感じたか」という質問に対し、小中学生の6割以上が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した。**学習に対する不安を払拭する取組が必要。**
- ・小中学生ともに「国語の勉強が好き」と答える割合がR1よりも下がったが、「数学の勉強が好き」と答える中学生の割合はR1よりも高い。学習意欲への相関はみられない。
- ・豊田市のR1とR3の全国学力学習状況調査結果比較から、**学力に関するコロナ禍の相関はみられない。**

【休校中、勉強への不安を感じたか】



【算数・数学の勉強が好きか】



#### ②授業での子どもたちの様子から

- ・話し合いや、体験的な活動が制限され、**自分の思いを表現することに自信をもてない子どもたちが増えている**ように感じる。
- ・マスク着用、ソーシャルディスタンスを取る生活が続き、**人とかかわる経験が少ない**ため、今後の成長過程で影響が出るのではないかと心配とを感じる。

### (2) 子どもの体力に関する課題

#### ①体力テストの結果から

- ・R1と比べて多くの種目(9種目中7種目)で低下がみられた。コロナ禍で家庭で過ごすことが多くなり、**運動量が減ったことが体力低下の一因**と考えられる。

#### ②子どもたちの日常の様子から

- ・小学生・・・外遊びの時間や体育の授業での運動機会の減少による体力低下。
- ・中学生・・・部活動の活動時間が制限されたことによる体力低下。

### (3) 子どもの精神面に関する課題

#### ①不登校・別室登校児童生徒の増加

- ・**不登校や別室登校の増加率は、例年よりも非常に高くなっている。**

【豊田市の不登校児童生徒数の推移】

年度	小学校		中学校		合計
	児童数	出現率%	生徒数	出現率%	
R1	187人	0.78	412人	3.44	599人
R2	200人	0.84	429人	3.58	629人
<b>R3</b>	<b>277人</b>	<b>1.19</b>	<b>629人</b>	<b>5.19</b>	<b>906人</b>

【別室登校している児童生徒数の推移】

年度	小学校	中学校
R1	32人	120人
R2	52人	113人
<b>R3</b>	<b>88人</b>	<b>225人</b>

## 2 コロナ禍での学校の取組

学校の取組	withコロナによる変化	成果	課題
授業 学校生活	・学習用タブレットの整備 ・デジタルドリル教材の導入による個別最適な学習の展開 ・出前講座等のオンラインの活用 ・マスクは状況に応じて着脱	・GIGAスクール構想の進展	・新しい学習スタイルの構築 ・マスク着用による影響への対応 ・コミュニケーションのとり辛さや体験活動の減少による影響への対応
行事 (運動会や学芸会等)	・開催方法の変更・改善 運動会→種目の見直し・時間短縮 学芸会→学習発表会 など	・授業時間の確保 ・教職員の働き方改革の一助	・子どもや保護者の願い・要望の多様化への対応 ・子どもの成長につながり、感染症対策をふまえた行事のあり方の検討
部活動	・活動時間や活動内容の制限 ・感染症対策をした上での実施	・教職員の働き方改革への意識向上 ・モデル校による休日の部活動の地域移行	・地域移行を推進するための仕組みの構築及び人材や資金の確保 ・保護者や地域の理解と支援
地域の活動 (子ども会・地域の祭り等)	・中止・縮小が多くあった ・多様なボランティアの依頼	・消毒や清掃作業など、新たなボランティア活動の実施	・コロナ禍であっても地域ぐるみの教育を推進する取組の構想

【R3全校実施保護者アンケートより】

- ・「ICT教育」の項目については、「とてもよい・よい」の割合が約78%とR2よりも約5%増えた。
- ・「子どもが意欲的に授業に取り組むように工夫しているか」の項目についても、「とてもよい・よい」の割合が約77%とR2よりも約1%増えた。

- ・コロナ禍による様々な課題はあるが、改善した取組もある。**Withコロナを見据えた地域と共に育ち合う教育を進めるチャンス**ととらえたい。

## 3 今後の取組

### (1) 子どもの学力・学習意欲の向上のために

- ・学習用タブレットを迅速に配備し、活用したことによる一定の効果があった。**ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを推進**する。
- ・子どもたちが生涯にわたり豊かに学び続けるための教育環境づくりを推進する。

### (2) 子どもの体力向上のために

- ・学校では熱中症対策が必要であり、運動制限もある。学校だけの体力向上は困難。
- ・**部活動の地域移行も含め、家庭や地域でも日常的に継続して運動に親しめる環境づくりに向けた働きかけ**をしていく。

### (3) 子どもの精神面の安定のために

- ・人とのかわりに不安を感じている子どもが増え、保護者の考え方も多様になっている。**スクールソーシャルワーカー等の外部の専門家も積極的に活用**し、きめ細かな対応を進めていく。
- ・不登校の子どもについては、学校復帰だけをめざすのではなく、**子どもの社会的自立をめざした家庭・学校・地域の連携、協働による支援を構築**していく。